

中国の石油精製事情

経済成長が著しい中国において 1 次エネルギー供給は石炭が主要エネルギーであり年々増大しているが、石油供給も伸びは鈍化しているものの、漸増している。

その中で、新常态下に入った中国においても、製油所の新設・増設による生産能力の拡大は続いており、2009 年以降、稼働率は 80%を下回った状態が続いている。

中国の製油所は全部で 220 か所あるが、15 万 BPD 以下の Teapot（ティーポット）と呼ばれる極小規模～小規模の地方製油所が数として 90%弱存在し、それらの製油所はこれまで原油輸入権がなく、稼働率も 30～40%であった。2015 年から極小規模の設備は廃棄することと、環境規制（国 V）に適合させることを条件にティーポット製油所にも輸入権が与えられたことから、現在では稼働率が 50%超に回復している。

今後、ティーポットの廃棄と、大型製油所への集約が進み、向こう 15 年で、年平均 0.5～2.6%の幅で精製能力の増大が進むと予測されている。

〈経済産業省レポートから引用〉